

2026年度 町田市立南第一小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 ○深く考える子ども(自分で学ぶ みんなで学ぶ) ○助け合う子ども(違いを理解し 力を合わせる) ○粘り強い子ども(なりたい自分を目指し やり抜く) ○元気な子ども(望ましい運動習慣 生活習慣)	学校経営の重点 ○地域と協働したキャリア教育を土台にして、学びに向かう力を育成するとともに、自ら学び続ける力を支える基礎学力の伸長を図る。
○目指す学校像………将来への希望を抱いて 高め合える学校 ○目指す児童・生徒像………なりたい自分に向かって、自ら学び、仲間と学び合う子ども ○目指す教師像………職務に責任とやりがいを持ち、自己研鑽を重ねながら児童に愛情をもって指導ができる教師	重点目標の成果と課題

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価	評価		
社会に開かれた教育課程の實現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	授業等の公開や積極的な情報発信を行い、教育活動への理解を図る。	学校(学年)だより、専科だよりやホームページで、保護者のニーズに配慮した分かりやすい情報を発信する。	1 週4回以上の更新 2 3週以上の更新 3 週2回以上の更新 4 週2回未満の更新			A 学校評価アンケート②「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート②「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート②「情報発信」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート②「情報発信」肯定的評価 65%未満								
			学校公開、学校(学年)行事等種別的な公開とともに、保護者や地域の人達を通して良好なコミュニケーションを図る。	1 90%以上のクラスで実施して取組を実施 2 80%以上のクラスで実施して取組を実施 3 70%以上のクラスで実施して取組を実施				A 学校評価アンケート①「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート①「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート①「教育活動公開」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート①「教育活動公開」肯定的評価 65%未満							
			地域人材・地域教材を活用した学習を全学年で実施する。	1 必要情報(必要情報)の90%以上を周知・意見交換 2 必要情報の80%以上の周知・意見交換 3 必要情報の70%未満を周知・意見交換				A 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%未満							
			学校運営協議会での本校の教育活動の周知及び情報共有を図るとともに、教育活動の協働に取り組む。	1 必要情報の90%以上の周知・意見交換 2 必要情報の80%以上の周知・意見交換 3 必要情報の70%未満を周知・意見交換				A 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%未満							
教員の働き方改革を推進する。	毎月の全職員が定時で出勤する定時出勤日を設定し、定時出勤日は年間スケジュールに入れて、全教職員に共有する。	毎週ノルメータを設定し、業務に集中して取り組めたり、年次有給休暇を取得したりしやすい環境をつくる。	毎月全職員が定時で出勤する定時出勤日を設定し、定時出勤日は年間スケジュールに入れて、全教職員に共有する。	1 定時出勤日毎月4日以上設定(年48日以上設定) 2 定時出勤日毎月2日以上設定(年24日以上設定) 3 定時出勤日毎月1日以上設定(年12日以上設定)			A 設定した定時出勤日の達成割合が90%以上 B 設定した定時出勤日の達成割合が70%以上 C 設定した定時出勤日の達成割合が60%以上 D 設定した定時出勤日の達成割合が50%未満								
			ノルメータを年毎に設定し、業務に集中して取り組めたり、年次有給休暇を取得したりしやすい環境をつくる。	1 ノルメータを平均2日以上設定 2 ノルメータを平均1日以上設定 3 ノルメータを平均0.5日以上設定				A 1人当たりの月平均時間外有給等時間以下の割合 90%以上 B 1人当たりの月平均時間外有給等時間以下の割合 80%以上 C 1人当たりの月平均時間外有給等時間以下の割合 70%以上 D 1人当たりの月平均時間外有給等時間以下の割合 70%未満							
			毎月の全職員が定時で出勤する定時出勤日を設定し、定時出勤日は年間スケジュールに入れて、全教職員に共有する。	1 必要情報の90%以上の周知・意見交換 2 必要情報の80%以上の周知・意見交換 3 必要情報の70%未満を周知・意見交換				A 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%未満							
			学校運営協議会での本校の教育活動の周知及び情報共有を図るとともに、教育活動の協働に取り組む。	1 必要情報の90%以上の周知・意見交換 2 必要情報の80%以上の周知・意見交換 3 必要情報の70%未満を周知・意見交換				A 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート④「地域との一体性」肯定的評価 65%未満							
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が深く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	「分かる・できる・参加する」授業を目指し、授業をデザインする8つの取組に基づく授業を展開することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	町田市スタンダード授業改善シートやUDチェックシートを活用し、児童が理解できる授業を実施する。	1 90%以上の授業で実施 2 80%以上の授業で実施 3 70%以上の授業で実施 4 70%未満の授業で実施			A 授業アンケートで80%以上が「分かりやすい授業」と回答 B 授業アンケートで70%以上が「分かりやすい授業」と回答 C 授業アンケートで65%以上が「分かりやすい授業」と回答 D 授業アンケートで「分かりやすい授業」の回答が65%未満								
			児童の学習状況を把握し、体系的な指導を通して基礎的な定着を図る。	1 90%以上の授業で実施して指導 2 80%以上の授業で実施して指導 3 70%以上の授業で実施して指導 4 70%未満の授業で実施して指導				A 学校評価アンケート⑤「基礎基本の定着」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑤「基礎基本の定着」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑤「基礎基本の定着」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑤「基礎基本の定着」肯定的評価 65%未満							
			キャリア教育の4つの能力の活用し、児童が学ぶ意欲をもち、目標に向かって学ぶ授業を実践する。	1 90%以上の授業で実施 2 80%以上の授業で実施 3 70%以上の授業で実施 4 70%未満の授業で実施				A 授業アンケートで80%以上が「夢を実現して学習した」と回答 B 授業アンケートで70%以上が「夢を実現して学習した」と回答 C 授業アンケートで65%以上が「夢を実現して学習した」と回答 D 授業アンケートで「夢を実現して学習した」の回答が65%未満							
			ICTを活用して、学びを深め広げる協働的な授業を行う。	1 90%以上の授業で実施 2 80%以上の授業で実施 3 70%以上の授業で実施 4 70%未満の授業で実施				A 教員自己評価で80%以上が肯定的な回答 B 教員自己評価で70%以上が肯定的な回答 C 教員自己評価で65%以上が肯定的な回答 D 教員自己評価で肯定的な回答が65%未満							
豊かな心と多様な個性を尊重し、自分と共に関心・意欲・態度を育てる。	多様な人との関わりを通して、自己理解・他者理解を深め、自己有用感を高める。	児童の主体的な自発的活動を重視し、縦割り班活動や委員会活動、クラブ活動、学校行事等を行う。	児童の主体的な自発的活動を重視し、縦割り班活動や委員会活動、クラブ活動、学校行事等を行う。	1 年間活動計画の90%以上で実施 2 年間活動計画の80%以上で実施 3 年間活動計画の70%以上で実施 4 年間活動計画の70%未満で実施			A 児童アンケートで80%以上が肯定的な回答 B 児童アンケートで70%以上が肯定的な回答 C 児童アンケートで65%以上が肯定的な回答 D 児童アンケートで肯定的な回答が65%未満								
			キャリア教育の視点を通して、自分を見つめ、振り返り、次に活かせる場の設定を全校教育活動で実施する。	1 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 3 70%以上の指導場面で実施 4 70%未満の指導場面で実施				A 児童アンケートで80%以上が「自分を見つめられた」と回答 B 児童アンケートで70%以上が「自分を見つめられた」と回答 C 児童アンケートで65%以上が「自分を見つめられた」と回答 D 児童アンケートで「自分を見つめられた」の回答が65%未満							
			いじめをしない、させない、見逃さない生活指導を徹底する。学校いじめ対応チーム月例会を通して、学校体制の強化を図る。	1 人権教育・いじめ防止教育を毎月1回以上指導 2 人権教育・いじめ防止教育を学期に2回以上指導 3 人権教育・いじめ防止教育を学期に1回以上指導 4 人権教育・いじめ防止教育を年2回以上指導				A 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 65%未満							
			道徳授業を通して、道徳的価値に対して自分を見つめさせ、道徳的実践力を育成する。	1 90%以上の道徳授業で実施 2 80%以上の道徳授業で実施 3 70%以上の道徳授業で実施 4 70%未満の道徳授業で実施				A 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑧「豊かな心の涵養」肯定的評価 65%未満							
健康な心身の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	日常的な運動及び健康教育・食育の充実させ、体力の向上を図る。	家庭と連携した「元気なもも」ワークを毎週実施し、生活リズムの見直しと改善を図る。	1 計画の90%以上の指導場面で実施 2 計画の80%以上の指導場面で実施 3 計画の70%以上の指導場面で実施 4 計画の70%未満の指導場面で実施			A 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満 B 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 65%未満								
			体力テストの結果分析を活かして体育の授業改善、体力向上月間、体育集会を通して、運動の日常化を図る。	1 計画の90%以上の指導場面で実施 2 計画の80%以上の指導場面で実施 3 計画の70%以上の指導場面で実施 4 70%未満の指導場面で実施				A 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑩⑪「食習慣・生活習慣」肯定的評価 65%未満							
			定期的な安全点検による校内設備の徹底と、清掃活動や美化週間の充実を図る。	1 月に1回以上、指導実施 2 学期に2回以上、指導実施 3 年に1回以上、指導実施				A 学校評価アンケート⑫「安全意識の育成」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑫「安全意識の育成」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑫「安全意識の育成」肯定的評価 65%以上 D 学校評価アンケート⑫「安全意識の育成」肯定的評価 65%未満							
			毎週の職員夕会で、児童の問題行動や校内環境等の課題について共有し、組織的な解決に取り組む。	1 90%以上の必要情報に対して実施 2 80%以上の必要情報に対して実施 3 70%以上の必要情報に対して実施 4 70%未満の必要情報に対して実施				A 児童アンケート⑬「心理的安全性」で肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート⑬「心理的安全性」で肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート⑬「心理的安全性」で肯定的評価 65%以上 D 児童アンケート⑬「心理的安全性」で肯定的評価 65%未満							

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ) 取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標評価基準 成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 65%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 65%未満 ⇒ 評価D	学校関係者評価の評価基準例 A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らなかったため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題があるため、次年度、重点的改善 ※ 学校からの十分な説明のもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。
--	--	--

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。